

WEEKLY



Rotary



ゴードンR.マッキナリー会長

酒井法丈ガバナー

山本雅久会長

RIテーマ

地区方針

クラブ方針

CREATE HOPE in the WORLD
世界に希望を生み出そう

培おうプライド、育もうブランド、
そして未来へ!!

輝こう! 豊橋ゴールデンロータリークラブ
～我がクラブの志と共に～

第13回(通算1627回)例会報告

令和5年10月13日(金)

米山記念奨学担当例会

出席報告

総会員数56名(計算会員数51名)欠席8名出席率84.31% 前々回修正出席率86.00%

歌/会場

国歌・奉仕の理想

会場: ロワジュールホテル豊橋 30F「ル・モン」12:30～

会長の時間



山本雅久会長

皆さんこんにちは今日は会員スピーチをお願いしております、10月20日に①甲府ロータリークラブ、国際ロータリー第2620地区パストガバナー高野孫左エ門会員をお迎えしてロータリーについて学ぶ場を開催することとなり。会員皆様の良き道しるべとなることと思っておりますので是非参加をお願いいたします。②社会奉仕委員会と地区補助金事業と一般人約50名との研修会を執り行いますのでごぞって参加をお願いします。③米山奨学委員会の例会です牧さん宜しく願いいたします。

会員スピーチ

「私が今まで育んできたこと」
「私が現在育んでいること」
「私がこれから育んでいきたいこと」



伊藤眞芳会員

私が今まで育んできたこととは、「自分が今まで心がけてきたこと、これからも心がけていきたいこと」だと考えました。それを述べます。

私は、生まれてから「さつき湯」という「風呂屋」で育ちました。両親は、一日中、仕事づくめで、朝から深夜まで風呂に関わって生活をしていました。風呂屋というのは、いつも風呂を洗ったり、湯を沸かしたりしてお客様が楽しんで風呂に入ってくれていることで生活が成り立っています。そんな毎日ですので、当然ながら風呂の設備も修理が必要になってきます。そして、私が小学生の頃、我が家としては、多額の借金をして風呂の設備の大修繕を行いました。大修繕が終わって、今度は借金返済です。両親は苦労を重ねながらその借金を返済し終わりました。子供心にも両親は大変な思いをして借金の返済が終わってよかったと思いました。

ほっとしたのもつかの間、父親が「お客様にもっと喜んでもらいたいの、また、借金をして風呂を改修する。」と言い出しました。子供心にも借金が終わってやれやれと思っていた時でした。私は驚いて父親に「やっと借金を返済し終わったのに、何故、また、多額の借金をしてまで風呂を改修するのか?」と、尋ねました。すると父親の返事は「大修繕が終わって、たくさんのお客様が喜んでくれたので、借金も返済できた。これからももっとお客様に喜んでもらいたいの、また、借金をして風呂を改修したい。」という回答でした。

「喜んで、楽しんでくれるお客様のために、もっと、より良くしたい」という気持ちが良く解りました。この考え方は、私の心に深く刻まれました。「人のために、商いをずっとやり続けることが、幸せの一部なんだ」と教えてもらいました。そんな考えを基に、学生生活、社会人になっても生活をしていくことが出来ています。

ところで、この考えは、社会人になってから「近江商人の三方よし」の考え方と通じる事が解りました。「売り手よし」、「買い手よし」、「世間よし」の「三方よし」です。近

誕生日祝い

お誕生日おめでとうございます!



牧野政雄会員

西郷隆治会員

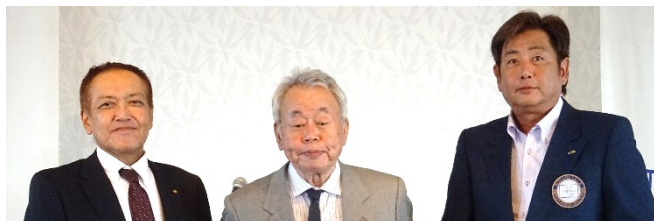
杉田和俊会員



今川明彦会員

鵜殿健次会員

入会記念日祝い



鵜殿健次会員

伊藤角栄会員



江商人は、信頼を得るために、売り手と買い手がともに満足し、更に社会貢献もできるのが良い商売であると考えていました。そうして蓄積していった信頼はやがて彼らに大きな利益をもたらしました。この「三方よし」の考え方は多くの経営者の指針となっているそうです。

そして、この考え方はロータリークラブの活動の下になっています。私は西暦 2020~2021 年度の第 33 代会長を仰せつかった時に、父親に教えてもらった考え方が頭にあって、次のようにクラブ方針にも記載させていただきました。

「そのロータリーの重要なドキュメントは決議 23-34 があります。その第一条には『ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人の為に奉仕したいという感情のとのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は、奉仕—「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最も奉仕するもの、最も多く報いられる」という実践的な倫理哲学である。』とあります。また、第四条には『奉仕するものは行動しなければならぬ。ロータリー運動は単なる理念の提唱ではなく、実践哲学である。』と説かれています。私たち会員は、この言葉を胸に秘め、ロータリーで利己と利他の調和を図ることを学び、他人への思いやり、他人のために尽くし、心豊かな住みよい社会を目指し、活動しています。このように、記載させていただきました。これで、会員スピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。



中村彰宏会員

皆さんこんにちは。中村です。
私には長男、長女、二男の 3 人の子供がいます。娘は結婚するまでロータリーのクリスマス会に来ていましたので、娘がいるなあと思ってる方もいらっしゃると思いますが、実は私が新入会員の年のクリスマス会に当時中学生だった二男も妻の代わりに出席しています。その末っ子の二男が 11 月 3 日に結婚式を挙げます。

昨年のお盆に二男が帰って来た時に冗談で「お前いつ結婚するだあ」って聞いたら、「今年中かも知れん」っていう返事が返ってきました。彼女がいるという事も聞いていないのに、突然結婚とは、さすが末っ子。

昨年の 9 月に二男と一緒にハワイに行った時にセントレアまで見送りに来た彼女を紹介され、10 月の豊橋祭りの日に、ロワジュールホテルの「藤さわ」で一緒にご飯を食べました。

11 月に二人で住むアパートを探して二人で住み始めて、籍を入れて、今年の 1 月に両家の顔合わせをして、9 月に新婚旅行に行って、11 月に結婚式を挙げるって順番が滅茶苦茶です。両家の顔合わせが 1 月になったのは私が昨年の 11 月に心筋梗塞で入院したのが原因かもしれませんが、それにしても結婚式が最後でしかも仏滅で 11 月 3 日は昨年私が心筋梗塞で入院した縁起でもない日に結婚式って言うのはどうなのでしょう。

私はたまに療養でハワイに行っています。ハワイのワイキキのシェラトンとハレクラニの間のビーチに真水が湧いている所があり、そこがパワースポットと呼ばれていて、ステージ 4 で余命宣告をうけた癌患者の某社長さんがその海に浸かっていたら癌が治ったという話を聞き、私はた

まにそこに浸かりにハワイに行っています。
二男夫婦の 9 月の新婚旅行も 5 月頃に「9 月にハワイに行くけど一部屋空いているけど、お前らついて来ても良いよ」って LINE をしたら、「新婚旅行ハワイにするかな」って返信が来ました。親の旅行について来るのは良いと思いますが、それを新婚旅行にするのはどうなのでしょう。お嫁さんからしたら、旦那の両親と新婚旅行に行くなんて、鬱陶しいんじゃないでしょうか。

旅行中二男夫婦はウェディングフォトを撮ってもらったり、サンセットクルーズに行ったり、ダイヤモンドヘッドに登ったり、ハワイグルメを食べたり楽しそうでしたが、ある朝お嫁さんが朝食に来なかった時があって、その時二男が、「祥子ママの体調が良くなって、最短で結婚式を挙げられる日が 11 月 3 日だった」という話を聞きました。お嫁さんのお母さんは膵臓癌だそうで、抗がん剤治療をしているそうです。私もがん患者で抗癌剤を飲んでいますが、レベルが大分違いそうです。仏滅に結婚式を挙げると言う謎も解けました。

楽しい時を過ごしてセントレアに帰って来た時、お嫁さんに「祥子ちゃん一緒に行ってくれてありがとうね」って言ったら、社交辞令かも知れませんが、「とても楽しかったです」って言ってくれたので、本当に良かったと思いました。

自分の子供は大人になっても子供で、どの子もかわいいのですが、末っ子は生意気でのんびり屋で何を考えているのか良く分かりませんが、何か特に愛おしい感じがします。私は若い頃とても貧乏で、3 人の子供を育てるのは大変でしたが、今となっては 3 人目の末っ子の二男が生まれて来てくれて本当に良かったと思っています。娘も一人増えましたし。

あと 3 週間ですが、11 月 3 日が無事迎えることが出来ることを祈願して、私のスピーチとさせていただきます。

ロータリーの友読みどころ



岸 拓途雑誌副委員長

初めて読みどころの発表させて頂くので、至らない点もあると思いますが、最後までお付き合い下さいませ。まずは横ぐみの 4 ページ、ゴードン R. マッキナリー RI 会長のメッセージのページをご紹介します。ゴードン会長が今回テーマにされていたのは「メンタルヘルス」です。メンタルヘルスケアに向けてすでに取り組みを初めているロータリー会員の素敵な取り組みをメッセージの中でご紹介しています。昨今の日本でもメンタルヘルスケアや怒りをコントロールするアンガーマネージメントなどの言葉が多くメディアで取り上げられています。コロナパンデミックの影響で疲弊していた人々のメンタルをケアする大事な時期に来たと思います。すでに多くの企業で従業員へのメンタルヘルスケアを導入もされています。

ゴードン会長も多くの方がメンタルヘルスケアを必要としている大事なタイミングだからこそ、ロータリーではお互いが助け合って幸せな人生を築くことで、人生をさらに発展させていきたいと思いますというメッセージを記載されています。

次に横組の 15 ページ、米山学友世界大会が 8 月 5 日に開催されたお知らせです。



世界 38 の国と地域の学友が世界最大級のサイエンスシテ
ィーである茨城県つくば市に集結しました。私自身が海外
への支援事業が多く、主にミャンマーを中心に農業、畜産
の支援を行ってきたので、世界各国の取組みや活動にとて
も興味があり、特に米山学友会の活動の意義とそれに関す
る興味をひく記事で御座いました。

次の記事は横組の 26 ページです。2024 年ロータリー国際
大会の開催地であるシンガポールに関する記事です。4 人
のロータリアンがそれぞれ、シンガポールの魅力を語って
くれております。

最先端の技術が集まり、街には緑があふれ、多文化他人種
が調和して生活しているそんな、成功にあふれたシンガポ
ールの印象をさらに膨らませてくれます。

同時に 2024 年の国際大会に参加してみたいと思わせてく
れる素敵な記事だと思います。

縦組に変わります。4 ページをお開きください。

企業による障害者雇用の取組みがご紹介されています。

現在障害者は人口の 7.4%になると言われています。

この数字からお分かりになる様に、日系企業が多く進めて
いるメンタルケアと同じく、障害者の方々を雇用して向き
合っていく、そんなタイミングに来ているのだと改めて感
じさせられた記事で御座いました。

続いては 14 ページの俳壇、歌壇、柳壇のページです。

私もいつも三河地区での投稿がないかチェックしている
ページです。

今回は残念ながら三河地区での投稿はございませんで
した。私も小学生の頃に短歌をやっており、明治記念総合歌
会に入賞した事もありましたので、このページの投稿にも
チャレンジしてみようと思います。

最後に私の大好きな日本酒が記事になっています、21 ペ
ージの卓話の泉をご覧くださいませ。

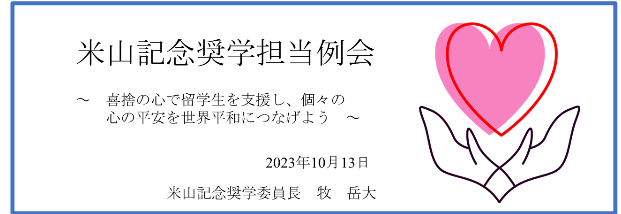
日本酒に限らず、焼酎もそうですが、福島放射能汚染水
の処理水排出の件で、中国、韓国などの大きなマーケット
への輸出の制限が厳しくなってきました。

大きな客先を失った酒造メーカーさんは大きな痛手を負
っていると思いますが、ピンチはチャンスとも言うよう
に、新たな輸出先の可能性が出てきたのも事実です。ヨー
ロッパでは少し前から、日本酒を「ライスワイン」と呼び、
今では馴染みがあるお酒になりつつあります。

また、東南アジアでも梅酒や日本酒などの日本の甘い風味
が楽しめるお酒の取り扱いも増えてきたと聞きます。変革
のタイミングは苦しい事も多いですが、お酒の事例からも
それをチャンスに変えられる可能性があるのだと、深く感
じさせられました。

以上、ロータリーの友の読みどころとさせていただきます。

きました。順序が逆になって申し訳なく思っておりますが、
本日は、米山記念奨学事業について説明させていただきま
す。また、本日、状差しにて、ロータリー米山記念奨学事
業のパンフレットを配布させていただきました。簡潔かつ
丁寧にとまとめられていて事業を理解するのに便利だと思
っております。本日の卓話でも少々使用いたします。今、
お手元がない方は、状差しに入っていると思われるので、
準備のほどよろしく願いいたします。また、本日はスラ
イドも用いて卓話いたします。お手元のパンフレットとス
クリーンの画面と、行ったり来たりとなりますが、30 分間
お付き合いのほどよろしく願いいたします。



最初にスクリーンの右側にあるアイコン。ご存じの方は
いらっしゃいますか？ベテラン会員の方々からの、「見慣
れるくらい見てきたよ」という声が聞こえてきそうですが、
新会員の方もいらっしゃいますので、説明いたします。パ
ンフレットの最終ページをご覧ください。ここに記載され
ています。

事業のシンボルマーク
重なり合うハートは「ロータリアン」と「奨学生」です。
外国人留学生の支援・交流を通じて国を超えた信頼関係を
築き、世界の平和を願う「心」を育てるという、事業創設の
願いが込められています。

手は、そうした「心」を生み出すと同時に、当事業がロー
タリアンの手で支えられていることを示しています。

本日の卓話、このような形で進めていきます。本日の卓
話のテーマ、長くて申し訳ないと思っておりますが、地区
米山委員長会議で教えて頂いたことと、ガバナー公式訪問
でレクチャー頂いたことを踏まえて決めました。「喜捨の
心で留学生を支援し、個々の心の平安を世界平和につなげ
よう」。例会が終わった後に全ての会員の皆様になぜ私が
このテーマにしたのかをご理解いただけたならば、私の卓
話は成功したといえるのかなと思っております。

～ ロータリーのあゆみ (抜粋) ～

1905-1911	創設期
1912-1930	世界への拡大
1931-1957	リーダーの育成
1958-1984	グローバルな奉仕
1985-2004	壮大な目標
2005-現在	インパクトの重視

(国際ロータリー公式HPより抜粋)

次に事業のあゆみについて説明したいのですが、その前
に米山記念事業が開始する前のロータリーの歴史をおさ
らいすることで、事業設立時のロータリーや世界がどのよ
うなものだったかを確認したいと思います。スライドに提
示したものは、国際ロータリーの HP から抜粋したものに
なります。

ロータリーの 100 年以上に亘る歴史の中で、ロータリー
の中でも外でも様々なことが起こり、それに合わせて様々
な決議決定を行うことでロータリーが発展してきました。
今でも、3 年に 1 度行われる規定審議会等で、時代に合わ
せて変化していますが、ロータリーの根幹は「創設期」や
「世界への拡大」の中で作られたものと思われま

米山記念奨学担当例会
-喜捨の心で奨学生を支援し、
個々の心の平安を世界平和につなげよう-



牧 岳大米山記念奨学委員長
皆様、こんにちは。米山記念奨学委
員長の牧です。10 月は米山月間にな
ります。先日、米山記念奨学事業へ
のご喜捨のお願いを郵送させていた



～ ロータリーのあゆみ 創設期 ～

- 1905 ロータリー創設 (2/23シカゴ、4名)
- 1907 初期の奉仕プロジェクト (公衆トイレ)
- 1908 ロータリー第二の都市 (サンフランシスコに2つ目のクラブ設立)
- 1910 全米ロータリークラブ連合会の設立
(第1回ロータリー大会、16クラブ、RIの前身、定款細則⇨クラブの自律性)
- 1911 『The Rotarian』誌 創刊 (現在の誌名は『Rotary』)
- 1911 ロータリーの標語
第一標語: 「超我の奉仕」 (Service Above Self)
第二標語: 「最もよく奉仕する者、最も多く愛られる」

(参考: 国際ロータリー公式HP)

最初に創設期を見ていきます。1905年の創設から、1907年には最初の社会奉仕をクラブで行い、1908年には2つ目のクラブができて、1910年には16ものクラブとなり、その連合会を設立し、共通の部分と各クラブの自律の部分を作り上げています。そして、多くの人が集まることで思いや理念を共有する必要が生じ、1911年には雑誌が生まれ、2つのモットーも産まれたという流れになっています。

～ ロータリーのあゆみ 世界への拡大 ～

- 1912 「国際ロータリー連合会」に名称変更 (旧名: 全米ロータリークラブ連合会)
- 1912 ヨーロッパに拡大 (8月: ロンドンRC加盟認証)
(1913年5月: ダブリンRC正式加盟認証)
- 1914 「英国ロータリークラブ連合会 (RIBI)」を設立
- 1914 第一次世界大戦勃発
- 1917 ロータリー財団設立
- 1918 第一次世界大戦終戦
- 1919 南米に拡大 (2月: モンテビデオRC加盟認証)
- 1919 「第1回国際協議会」開催
- 1920 アジアに拡大 (6月: マニラRC加盟認証)

(参考: 国際ロータリー公式HP)

ロータリーは、1912年にはヨーロッパに拡大し、1919年には南米、アジアに拡大、1921年にはオセアニアとアフリカに拡大、その中で、1919年に第1回国際協議会が開催されています。また、ロータリー財団も1917年に設立されています。

～ ロータリーのあゆみ 世界への拡大 ～

- 1919 オセアニアとアフリカに拡大 (4月: メルボルンRC加盟認証)
(7月: ヨハネスブルグRC加盟認証)
- 1921 RI定款に「平和と国際親善の推進」が追加
- 1922 「国際ロータリー」に名称変更 (旧名: 国際ロータリー連合会)
- 1922 「ロータリーの目的」採択 (「平和と国際親善の推進」も盛り込まれる)
- 1923 決議23-34 社会奉仕活動に対する方針
(Policy Toward Community Service Activities)
- 1927-28 四大奉仕の採択 (オスランド大会ほか)

(参考: 国際ロータリー公式HP)

そして、1921年にRI定款に「平和と国際親善の推進」が追加されます。ロータリーの大陸を超えた拡大による国際交流の効果と、第一次世界大戦の経験により平和への想いが深まったことも影響しているのかなと思います。

次の年、1922年に国際ロータリー連合会が国際ロータリーに名称変更された際、ロータリーの目的が採択されていますが、そこにも「平和と国際親善の推進」が盛り込まれています。

そして、1923年、決議23-34です。良いことをしたい、仲間の協力が必要、仲間の親睦が大切。この決議で親睦と奉仕の調和を図ったものとなります。

1927年のオスランド大会とその後の追加により、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の四大奉仕という形が確立されました。

ここまで、長々とお話しさせていただきましたが、先人のロータリアンの、「良いことをしたい」という想い、「仲間を増やしたい」という想い、「平和への想い」を感じて頂けたでしょうか。

そして、時代は第二次世界大戦、日本のロータリーの脱退、再加盟等、激動の時代となりますが、ここからは米山記念奨学事業の歴史に移りたいと思います。

- 1945 第二次世界大戦終戦
- 1946 米山梅吉氏逝去
- 1947 ボールハリス氏逝去
- 1949 日本のロータリーが国際ロータリーに復帰
- 1951 サンフランシスコ講和条約調印
- 1952 東京RCが奨学事業の構想を立案
- 1953 「米山基金」の募金開始
- 1954 奨学生第1号のソムチャード氏がタイより来日
- 1954 国費外国人留学生制度開始
- 1957 新組織「ロータリー米山奨学委員会 (委員長: 小林雅一氏)」を結成
- 1958 新組織初の奨学生8人を採用
- 1959 世話クラブ制度設置
- 1960 「ロータリー米山記念奨学会」と改称
- 1967 「財団法人ロータリー米山記念奨学会」設立

お手元の豆辞典の2ページから3ページをご覧ください。背景と共に事業のあゆみが記載されています。抜粋と少々付け加えたものをスライドに提示いたします。

まず最初に、1945年第二次世界大戦の終結後、1949年に日本のロータリーがRIに復帰しています。そして、1951年のサンフランシスコ講和条約により、日本が国として国際社会に復帰しています。そのような国際交流が復活してきている情勢の1952年、東京RCが日本の留学生への奨学事業を立案しています。

翌年の1953年に「米山基金」の募金を開始し、1954年に「奨学生第1号のソムチャード氏がタイより来日」という流れです。同じ1954年に国による「国費外国人留学生制度開始」が開始されていますので、それより前に開始している形になります。似たような事業がない中でこの事業の立ち上げ、とても大変だったのかなと感じています。初期の米山記念奨学事業の困難をどのように突破したか、そして日本でどのように日本各地のロータリアンと交流し歓迎されながら過ごしたかについて、「ロータリー米山記念奨学会50年のあゆみ」に記載されています。少々引用しながらお話いたしますが、ご興味がおありでしたら、ロータリー文庫で無料でダウンロードできますので、お読み頂ければと思います。

なぜ「米山基金」という米山梅吉氏にちなんだ名称の基金を立ち上げたかについても、記載されています。簡単な説明はお手元の豆辞典の4ページにも記載されています。米山氏が生前、若い青年たちへの援助に力を注いでいたことから、偉業を記念する事業として奨学事業が選ばれたとのことが50年のあゆみに記載されていました。

一人のロータリアンの奉仕の心が活動になり、その想いが引き継がれ、新しい素晴らしい事業が成功すれば、また次も、そして、より多くの方に、多くの地域にとなるのは、先程のロータリーの拡大と同様かなと思います。想いの広がりとともに、規模が大きくなり、質もより良質なものに改良され、仲間も増え、このようなことだと思えます。

1957年に新組織「ロータリー米山奨学委員会 (委員長: 小林雅一氏)」が結成されています。これまた、50年のあゆみで確認しましたが、委員長1名、副委員長2名、専務委員1名、常務委員8名の計12名からなる委員会ですが、我々の親クラブである豊橋RCの神野太郎氏も常務委員に名前を連ねています。要するに、東京RCの単独事業である留学生への奨学事業を全国に広めていくなかで、初期のメンバーにいらっしやっただということです。

1958年に「新組織初の奨学生8人を採用」と豆辞典にあります。50年のあゆみによると、全国19大学に呼びかけ、8大学から13名の候補者が委員会に届き、常務委員会で選考試験を行い8名を選抜したとのこと。そう、13名全員というわけではないのです。財源が限られている中、また奨学生個々の事情が違う中、この当時は支給額は

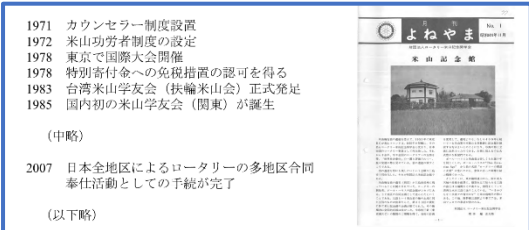


一律ではなく奨学生の事情に合わせたものになっていたようです。現在は規模の拡充とともに、豆辞典 8 ページにあるように 5 種類の奨学金プログラムとして、支給額等統一されていますが、財源が厳しく、希望学生全てにという訳にはいかないという事情は、現在も変わっていないようです。「皆様が多く寄付して頂ければ、多くの奨学生を受け入れることができる」このようなことを先日の地区主催の米山記念奨学委員長会議でレクチャー頂いてもおります。豆辞典 9 ページをご覧くださいと 2024 学年度は 889 人が枠となっているようです。また、豆辞典の 13 ページの下にある表をご覧くださいなのですが、2022 年の私費留学生は 219,214 人となっております。見方を変えると、まだ、21 万人のうちの 889 人、即ち 0.4%の方にはしか奨学金を渡せていないという解釈もできます。この活動を更に発展させていく必要があるのかなと思います。

1959 年に世話クラブ制度が始まりました。この時はまだ、カウンセラー制度は設置していなかったようです。50 年のあゆみから少々引用します。当時は「スポンサークラブ」という呼称だったとのこと。奨学金の手渡し、報告書の受け渡しなどを含めた奨学生とのコミュニケーションを担当してもらう制度とあります。この先は本文をそのまま読みます。「第 1 回の奨学生の時から担当クラブにお願いしていた内容であったものを、正式に制度にすることにより、奨学生に対して奨学金の支給だけでなく、人間的コミュニケーションを深める目的が明確に示され、この奨学制度を支える要の一つとして、その後今日まで受け継がれることになる」。我々も今、アリウナーさんの世話クラブとなっております。アリウナーさんと例会その他で一緒になる際はよろしくお願ひいたします。

1960 年ロータリー米山記念奨学会と改称とありますが、この前後にいくつかの変更点や決定があったようです。これも 50 年のあゆみから引用します。国費留学生在が米山奨学金の対象から外れています。この年までは、国費留学生も対象でしたが、日本の私費留学生在が約 5000 名と推定される中、1960 年度の米山奨学生は 20 名。そのうち 7 名が国費留学生。もともと米山記念奨学事業は海外留學生を招致するという事業でスタートしているので、原点に戻ろうということだったようです。この年は、他にも、会の名称が変わった後の常務委員会で、「奨学生募集要項の制度」が提案され、「米山奨学生のバッジの作成」が決定したとのこと。

1967 年財団法人となりました。50 年のあゆみによりますと、安定財源という部分に対して、当時の文部省との折衝に苦労があったとのこと。当時の日本の全地区が役員を送り込む形となりました。しかしながら、1969 年までは事務局は東京 RC の事務所を間借りし、専任スタッフもいないという状況だったとのこと。



また、豆辞典にはありませんが、1969 年 11 月に月刊『よねやま』が創刊されています。これもロータリー文庫で入手できます。そして、現在は、『ハイライトよねやま』という形で毎月刊行されています。これも米山記念奨学会 HP

からダウンロード可能です。

1971 年にはカウンセラー制度が開始されます。50 年のあゆみによると、奨学生の異国での心細さや不安をケアするというのが目的のようです。「心を育てる国際奉仕」とも記載されています。世話クラブが世話するという方式から、奨学生一人一人に更に寄り添う形の改革だったのではと感じました。国際奉仕事業だけれども、対象者は青少年でもある。青少年奉仕を考える際に大事なことの一つ、一人一人を大事にしてあげるといふ点、共通していると思います。カウンセラー制度は今でも続いている制度で、奨学生アリウナーさんの世話クラブは豊橋ゴールド RC、そしてカウンセラーは真野会員という形になります。

1972 年には米山功労者制度が始まります。奉仕する側に立った時は見返りを求めない喜捨の心により行うというのが重要ですが、周囲はその行為を表彰し、素晴らしい行いを鼓吹するというのもまた重要なことだと思います。

豆辞典右側に、1978 年、東京で国際大会開催とあります。この年度に大きな改革があったようです。奨学金の種類と適用範囲を詳細に定めたようです。大学院博士課程が対象の YD 奨学金、修士課程が対象の YM 奨学金、大学 3 年 4 年が対象の YU 奨学金、他に YDR 奨学金、YR 奨学金とあります。豆辞典 8 ページ、ここに現在の形が記載されています、改良は続いていったということのようです。

1978 年に、特別寄付金への免税措置の認可を得るとあります。米山記念奨学会の公益性が認められた結果とのこと。現在でも、免税制度の適用を受けています。後日、届きましたら、会員の皆様の状差しに免税措置を受ける際に必要な書類を配布いたします。

1983 年に台湾米山学友会正式発足、1985 年に国内初の米山学友会(関東)が誕生、とあります。学友会の初結成が国外であったというのが米山事業の特徴を強く示しているのかなと感じています。

豆辞典 17 ページをご覧くださいなのですが、その後、学友会は国内・国外ともに増えていき、日本に 33、海外に 10 の合計 43 の学友会があります。このページに記載されている件、歴代のカウンセラーさんのフォローあつての実践ということになると思うので、本当に頭が下がる思いです。このような活動の成果の一部として、豆辞典 15 ページにあるように、米山学友の活躍が紹介されています。

この後も、豆辞典に沿革が書かれていますが、大枠はお話してきたと思いますので、残りは豆辞典を各会員の皆様がお読みになって頂ければと思いますが、一か所だけ、説明いたします。2007 年、日本全地区によるロータリーの多地区合同奉仕活動としての手続が完了とあります。

米山記念奨学事業：日本全地区によるロータリーの多地区合同奉仕活動
 (2007年より) #RI提唱事業

豊橋GRCの米山記念奨学委員会：国際奉仕の一環、管轄は国際奉仕委員会
 (定款・細則より)

豊橋GRC細則 第11条第4節(b)より抜粋
 「この委員会は、在日留學生への支援を通して、相互国民間の永い理解と親善をもたらすよう米山記念奨学会の趣旨を会員へ奨励するという任務を遂行することを使命とする。」

「一人一人の心の平和」→ 交流・理解・親善 → 「世界の平和」

委員長を受けてから最初にやったことが、定款細則の再確認、そして、地区 HP・米山奨学会 HP の確認、ロータリー章典の確認、という順番でやっていたのですが、なんと、ロータリー章典に米山奨学事業のことが一言も言及されていないのです。これには少々面喰いしました。RI の公式



プログラムという形ではなく、日本のロータリー独自の事業である。そして、RIからも公認されている活動ということになります。沿革を見てもわかるように、日本の多くのロータリアンたちが、泥臭く、地道に築き上げていった事業なのかなと感じました。こちら辺が、私が地区出向して携わっているRYLA等のRI提唱のプログラムとは大きく異なる点であります。

一応、確認しておきます。豊橋GRCの米山記念奨学委員会は国際奉仕の一環で行われることが、クラブ定款細則に記載されています。定款第3条クラブの目的、第5条目的、第6条五大奉仕部門が強く関連する部分だと思えます。細則からは、第10条第3節に国際奉仕の中の特定分野を担当する旨があります。第11条第4節(b)に任務が記載されています。読み上げます。「この委員会は、在日留学生への支援を通して、相互国民間の末永い理解と親善をもたらすよう米山記念奨学会の趣旨を会員へ奨励するという任務を遂行することを使命とする。」。先日のガバナー公式訪問でもガバナーが仰っておりましたが、一人一人の心の平安が世界の平和につながるという部分、細則からも何となく感じ取れるのではと思っています。

社会奉仕に関する1923年の声明(決議23-34)より抜粋

- 3) RIは次の目的のために存在する団体である。
 - a) ロータリーの奉仕の理念の擁護、育成および全世界への普及。
 - b) ロータリークラブの設立、奨励、援助および運営の管理。
 - c) 一種の情報交換所として、各クラブの問題を研究し、また、強制でなく有益な助言を与えることによって各クラブの運営方法の標準化を図り、社会奉仕活動についても、既に広く多くのクラブによってその価値が実証されており、RI定款に掲げられているロータリーの目的の趣旨にかない、これを乱すような恐れのない社会奉仕活動によってのみ、その標準化を図ること。

念のため、決議23-34も見ておきます。何となく見慣れない第3項を提示させていただきました。先程あった「多地区合同奉仕活動」という形でRIに認められているということの基となっている考えの一つかなと思っています。赤い部分だけ読みます。「社会奉仕活動についても、既に広く多くのクラブによってその価値が実証されており、RI定款に掲げられているロータリーの目的の趣旨にかない、これを乱すような恐れのない社会奉仕活動によってのみ、その標準化を図ること。」こんな感じです。地道に築き上げて、地道に賛同者を増やして、拡大していく中で標準化を図り、

更に発展させていく。それを実践して示しているのが米山奨学事業なのかなと思っています。そういう意味で、継続は大事だと思います。

① 90-91年度	ベェンチャムロエン、クリッタナン	カウンセラー：梅村東、牧野政雄
② 93-94年度	ラージャバクシヤ、ダヤン・コーリタ	カウンセラー：石田喜運、早川潔
③ 95-96年度	N.P.チャンドラシ	カウンセラー：高沢博久
④ 96-97年度	グナティラカ、チンタカ・プラバーツP.	カウンセラー：中村泰明
⑤ 97-98年度	サイロート、スッサコーン	カウンセラー：岡本久永
⑥ 99-00年度	バンギョウシン	カウンセラー：山口浩三
⑦ 00-01年度	ジャンミンシー、パッタモン	カウンセラー：宮川嘉朗
⑧ 03-04年度	李冠平	カウンセラー：黒柳豊和、渡辺久祐
⑨ 06-07年度	シング・ウベンド・ラヴィンドラ	カウンセラー：山口幹夫、山本雅久
⑩ 09-10年度	格根	カウンセラー：渡辺久祐
⑪ 11-12年度	ソンプー・ニョッドマニー	カウンセラー：西郷隆治
⑫ 13-14年度	フィンフライム	カウンセラー：杉原敏雄
⑬ 15-16年度	ベヘバートルホズル	カウンセラー：白井正樹
⑭ 17-18年度	バヤンバトアナラーエレデネ	カウンセラー：西郷隆治

(敬称略)

我々のクラブが世話クラブとして担当した奨学生をスライドに表示させて頂いておりますが、奨学生とカウンセラーの関係が、奨学期間終了に伴い、学友とカウンセラーの関係になりながら、継続的に「一生涯のお付き合い」という形で、サポートを続けていらっしゃる歴代カウンセラーの方々には頭が下がります。我々のクラブではここまで14名、そしてアリウナーさんが15番目の奨学生ということになります。

喜捨。捧げるのはお金だけではなく、考え方、労力、時間、様々なものを捧げられると思います。大きくて良質な事業をみんなで支える、色々な支え方があると思います。

本年、奨学生アリウナーさんに対し、カウンセラーは真野会員ですが、ゴールデンRCが世話クラブです。皆様は世話クラブの一員となります。

歴代のカウンセラーの方々も一生涯の付き合いといわれる中で、当時の奨学生の方に対し、今でも、様々なものを陰で喜捨し続けているという陰徳があるものと思われまます。

会員の皆様、アリウナーさんのこと、歴代の米山学友のこと、また、寄付という形の特別寄付金、色々な形での喜捨して頂くこと、よろしく願いいたします。

以上で、本日の卓話を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

★ニコボックス

- 山本雅久・高井龍雄：米山記念奨学担当例会です。牧委員長よろしくお願ひ。
- 西郷隆治：四つのテストを唱和させて頂き。
- 牧野政雄：誕生日をお祝い頂き。馬齢を重ねて91歳になりました。今後共よろしくお願ひ。
- 西郷隆治・杉田和俊・今川明彦・鶴殿健次：誕生日をお祝い頂き。
- 伊藤角栄・鶴殿健次：入会記念日をお祝い頂き。
- 伊藤眞芳・中村彰宏：会員スピーチをさせて頂き。
- 岸 拓途：ロータリーの友読みどころをさせて頂き。
- 牧 岳大：米山記念奨学担当例会です。拙い話になると思いますが、30分間よろしくお願ひ。
- 石原聖季：委員会報告をさせて頂き。

杉田和俊：本日第1回ホームページリニューアルプロジェクトを18時古来やにて行います。

杉田和俊・加藤ゆり子・

村松 光：10/4の3RC合同コンペ&第2回ゴールデンカップで当クラブが優勝しました。

酒井正樹：10/4 ゴールデンカップ優勝させて頂き。

尾崎雅輝：ゴールデンカップ3位入賞させて頂き。

伊藤角栄：ゴールデンカップBB賞頂き。

福沢省吾：来週は創立35周年記念例会です。35周年年度が実りある年度になるように、山本会長、高井幹事さんクラブ方針の実現に頑張ってください。

鶴殿健次：ニコボックスを発表させて頂き。

鶴殿健次ニコボックス委員

★幹事報告

- ・第1回ローター・フットフェスティバル日程変更のご報告とお詫び、ガバナー補佐訪問のお礼状、春日井RC55周年記念講演会のご案内、直前ガバナー事務所閉鎖のお知らせ、豊橋RAC11月第一例会のご案内が届いております。

★他クラブの例会変更

- 10月24日(火) 宝 飯 RC 豊川 RC 合同例会(サイン無)
- 田原バ RC 地区補助金事業(サイン無)
- 10月25日(水) 豊橋東 RC 職場例会
- 豊 川 RC 豊川宝飯 RC と合同例会
- 10月26日(木) 豊 橋 RC ガバナー公式訪問
- 10月27日(金) 新 城 RC 職場訪問例会